

## 2021年度 杏林製薬医学教育プロジェクト助成報告書

### 1. 行った教育事業

名称:耳鼻咽喉科・頭頸部外科手術手技教育プログラム

担当者: 日本耳鼻咽喉科学会 卒前・卒後委員会 担当理事 藤枝 重治(福井大学)

本プログラムでは、臨床研修医、専攻医を対象に耳鼻咽喉科・頭頸部外科手術手技の向上を目指し、3領域のハンズオンセミナーを開催する予定であった。しかし新型コロナウイルスパンデミックのため密集・密接を避け、耳科・鼻科・頭頸部の3コースの予定を耳科・鼻科の2コースにし、受講者を減らして行った。

- 1) 第122回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会(2021年5月14日)にて、①耳科は手術顕微鏡と内視鏡を用いた乳突洞削開・鼓室形成術シュミレーターの5ブース。②鼻科は、産総研鼻モデル削開、鉗子基本操作、パブリカでの種取りの5ブースで行った。
- 2) 各コース1時間で午前2コマ、午後2コマとし、耳科コース20名、鼻科コース20名の計40名の専攻医および産休明けもしくは手術を再開する専門医を対象とし、講師はマンツーマン方式とした。参加者は男性28名、女性12名であった。

それぞれのコースとも定員以上の応募があり、現在の勤務地を考慮した自動選択システムを利用して、受講者を決定した。

### 2. 成果(教育効果の測定結果を含む)

ハンズオンセミナーの前後に受講した専攻医・専門医(40名)を対象として、4項目のアンケート調査を行った。各項目、0点:全くできない(思わない)から、10点:十分できる(とてもよくできる)の11段階とし、受講生に選択してもらった。各項目の平均点を示す。

	講習前	講習後
1)手術に自信があるか	2.3	4.4
2)解剖を理解しているか	3.1	5.3
3)手術手技は習得できているか	2.2	4.9
4)内視鏡・顕微鏡の使用はマスターしているか	1.9	4.8

5) 手術器具の使い方はマスターしているか

2.4

4.6

以上のように、専攻医自身、まだ耳鼻咽喉科手術の経験が十分でないため、受講前の点数は低いですが、ハンズオンセミナー後は、各項目で有意に自分に対する評価が上昇し、教育の効果が得られた。この傾向は、耳コースで顕著であった。

参加者のセミナー終了後の感想は、

大変勉強になりました。熱いご指導ありがとうございました。大変楽しませていただきました。非常に勉強になりました。解剖を中心に非常に勉強になりました。丁寧にご指導いただきありがとうございました。この機に耳科学をしっかり勉強していきたいと思います。器具に実際に触れることで、カメラや鉗子の扱いの難しさや、今まで見えていなかった解剖が分かり、非常に勉強になりました。貴重な経験をありがとうございました。とても楽しいレクチャーでした。今後の手術に是非とも役立てたいと思います。

等、すべてポジティブな意見であった。これまでの経験から、講師と受講者をマンツーマンにしていることが、高評価を得られた原因であると考えている。

ハンズオンセミナーの講師に関するアンケートでは、ハンズオンの重要性を再認識するとともに、指導する楽しみが多く述べられ、継続性を要望していた。機器と人材を提供した機器メーカーの参加者も同じようにハンズオンの熱気に興奮し、非常に楽しく、教育への貢献をした充実感を述べていた。

以上から本医学教育プロジェクトは、受講者、指導者、サポート側、三位一体の充実感が得られ、非常に有意義な教育事業であった。

## 2021 年会計報告書 書式

## (1) 収入

項目	金額
自己資金	2,500,000 円
杏林製薬医学教育プロジェクト助成	5,000,000 円
合計	7,500,000 円

## (2) 支出

項目	金額
運営費用(例:会議費、運営・管理費等)	4,259,494 円
医学教育プログラムの案内に関する費用(例: 案内状、招待状、受講申請書等の作成費等)	174,372 円
教育資材等作成費等	1,267,949 円
設備備品	623,000 円
講師費用(例:謝礼、交通費、宿泊費等)	1,185,254 円
認定費(医学教育プログラム受講完了に関する認定費)	10,340 円
その他費用	14,960 円
合計	7,535,369 円